鎮魂の祈り 復興への希望

大槌町の「大槌祭り」が、9月21日から3日間、大槌稲荷神社の宵宮、小鎚神社の宵宮と神輿渡御の順番で、繰り広げられました。数多くの郷土芸能団体が参加し、演じる人も、見る人も、一緒になって祭りを楽しみました。震災から2年半。鎮魂の祈りと、復興への希望を託した祭りが終わり、秋の気配が一段と色濃くなってきました。

「大槌祭り」は、安渡地区の大槌稲荷神社と、町方地区の小鎚神社の二つの神社の例大祭の総称です。例年は、それぞれ、日をずらして宵宮、神輿渡御を開催していました。今年の神輿渡御は、大槌稲荷神社が中止になり、小鎚神社だけになりました。

21日夜の大槌稲荷神社の宵宮には、安渡大神楽、上京鹿子踊、松の下大神楽、安渡虎舞が参加し、神社の境内で上演しました。太鼓と鉦と笛の音が、夜空にこだましました。

22日午前には、雁舞道七福神が加わり、大槌港に停泊中の定置網漁船の船上で舞を舞いました。大槌湾に浮かぶ蓬莱島を遠望しながら、11月に最盛期を迎える秋サケ定置網漁の豊漁と、漁の安全を祈願しました。

22日夜は小鎚神社の宵宮です。臼澤鹿子踊、松の下大神楽、向川原虎舞、金澤神楽、城内大神楽、中須賀大神楽、陸中弁天虎舞などの団体が演舞しました。杉木立が取り囲む境内には聴衆が詰めかけ、華麗、勇壮な舞に見とれました。

23日は、いよいよ神輿渡御です。午前9時、ご神体を乗せた2基の神輿が勢いよく繰り出しました。鹿子踊、神楽、虎舞など20近くの団体が神輿を挟んで長い行列をつくりました。被災し、新調された多くの山車が誇らしげです。御社地、旧町役場やJR大槌駅前の中心市街地を練り歩き、正午過ぎ、町役場に到着。午後は、桜木町、臼澤伝承館を経由し、午後5時過ぎ、神社に戻りました。夕闇が迫る境内を2基の神輿は競い合って走り回り、観衆に惜しまれつつ渡御を終えました。

神輿渡御の順路で神輿が休んだ御旅所は11カ所。それぞれの場所で、郷土芸能の団体が演舞しました。旧役場前では、臼澤鹿子踊が鎮魂の舞を舞いました。

町方地区の区画整理事業の本格化に伴い、近く盛土工事が始まります。神輿が、現在のコースを練り歩くのは、今回で最後になります。小鎚神社宮司の松橋知之さん（44）は「祭りを続けるのが私の役目。工事が始まっても、可能なルートで神輿を繰り出したい」と話しています。